

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用事業  
プロジェクト間連携による研究成果活用

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から十分な成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

(総合所見)

4機関による4つのプロジェクトを提携させるかたちで、成果の公開を具体化する、という課題によく取り組んでいる。平戸に焦点を当てて平戸市で国際シンポジウムを開催し、市と提携して記念行事を企画するとともに、平戸を経由地とする在外日本関係資料の伝搬経路マップを作成することは、本プロジェクトの成果として評価できる。

今後は平戸市と「北米日系社会の移民資料」に関するプロジェクトとの史的なつながりを確証する作業が必須であり、かつ、伝達経路マップの対象資料を広げてマップを充実させることが求められている。多言語による成果の発信も必要だろう。とはいえ、本プロジェクトの今後のメンバー構成と限定された予算を勘案するかぎり、この課題に応えることは至難である、と判断せざるを得ない。

(特記事項)

特に、改善を要する点

- ・「研究体制」について、4研究機関による4つのプロジェクトを連携させてまとめた成果を上げるには、人員・資金があまりに限られている。この点について、機構が対応を検討することが望まれる。